

平成 23 年度荒尾市の予算

一般会計当初予算は 204 億 8,000 万円 [前年度比 5 億 600 万円 (2.5%) 増]

一般会計予算の概要

歳入予算
今年度の歳入は、経済不況による個人所得の落ち込みから、市税は大幅な減収を見込んでいます。

地方交付税は22年度交付額並みと見込んでいます。国庫支出金・県支出金は各事業交付金や国の経済政策による交付金増額、財産収入は土地売却による収入増、繰入金は各種基金の取り崩しによる収入増を見込んでいます。

市債は昨年度実績基準から1億円増を見込んで計上しています。

歳出予算
歳出では、行政需要への対応を踏まえながら、「2030あらかわ有明優都戦略」を中心に、定住人口・交流人口の増加・拡大策に重点配分した予算編成に努めました。

増額部分として、子育て世帯への支援事業、生活保護費や保育所措置費、子ども手当、各種ワクチン接種緊急促進事業費、辛亥革命100周年記念事業関連事業費や万田坑の世界遺産本登録関連の調査事業費、緊急雇用対策事業費、大島地先整備事業費、団体営土地改良総合整備事業費などがあります。

人件費は、退職者の増や地方議会議員年金制度廃止に伴う議員共済負担金の増などにより増額となります。

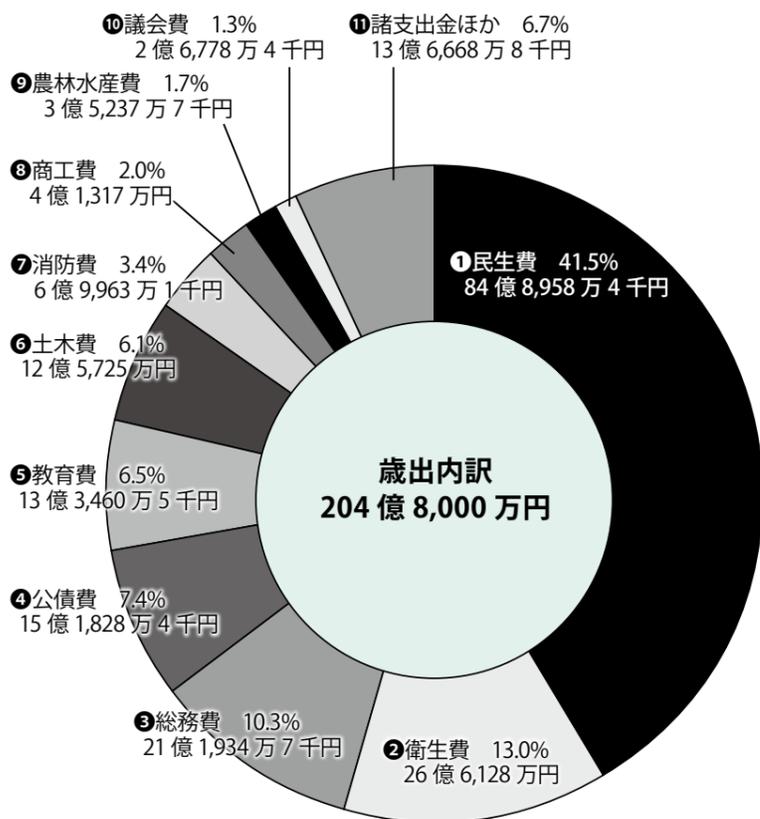
また、更に厳しくなってきた国民健康保険特別会計に対しての繰出金なども増額となっています。

具体的にはこんな事業に使います

- ①民生費**
ファミリー・サポート・センター事業、乳児家庭全戸訪問事業、子ども手当・児童手当の支給など子育てしやすいまちづくりのためにかかる費用
…18億 5,662万 3千円
- 国保・介護保険・後期高齢者医療保険などの特別会計への支出
…14億 5,136万 3千円
- ②衛生費**
ごみの収集・処理にかかる費用
…10億 240万 6千円
- 市民病院会計への支出
…7億 1,193万 2千円
- 各種健診・予防接種など保険事業にかかる費用
…4億 728万 7千円
- ③総務費**
市役所の管理事務費・人件費などにかかる費用
…11億 4,639万 5千円
- 辛亥革命100周年イベントや第5次総合計画策定、定住交流人口増進のための事業にかかる費用
…1億 3,957万 3千円
- ④公債費**
道路・市営住宅建築のために借り入れたものの元金返済に掛かる費用
…5億 7,905万 9千円
- ⑤教育費**
教育委員会運営や内部事務にかかる費用
…3億 7,075万 5千円
- 小・中学校の施設維持管理などにかかる費用
…3億 2,670万 8千円
- ⑥土木費**
道路の維持管理、整備などにかかる費用
…5億 2,706万 3千円
- 市営住宅の維持管理、整備にかかる費用
…1億 6,638万 2千円
- ⑦消防費**
常備消防、救急活動などのために有明広域行政事務組合へ支出する費用
…6億 2,829万 6千円
- ⑧商工費**
大島地先整備など企業誘致にかかる費用
…2億 2,310万 3千円
- ⑨農林水産業費**
農道や水路の整備などにかかる費用
…8,661万 8千円
- ⑩議会費**
議員人件費など議員活動にかかる費用
…2億 3,898万 6千円
- ⑪諸支出金ほか**
競馬組合への一時貸付金
…13億円

歳出予算

- ①民生費**…市民の社会生活を保障するための経費です。福祉分野に使われます。
- ②衛生費**…市民の健康で衛生的な生活環境を保持するための費用です。環境・保健分野に使われます。
- ③総務費**…市の全般的な管理事務経費です。
- ④公債費**…市の借金を返済する経費です。
- ⑤教育費**…幼稚園、小・中学校教育、社会教育やスポーツ振興の教育分野に使われます。
- ⑥土木費**…道路・公園・港湾・市営住宅などの維持や建設に使われます。
- ⑦消防費**…消防・水防・災害対策や救急活動などに使われます。
- ⑧商工費**…商工業の振興や観光事業に使われます。
- ⑨農林水産業費**…農林水産業の振興などに使われます。
- ⑩議会費**…市議会運営に使われます。
- ⑪諸支出金ほか**…競馬組合への一時貸付金などです。

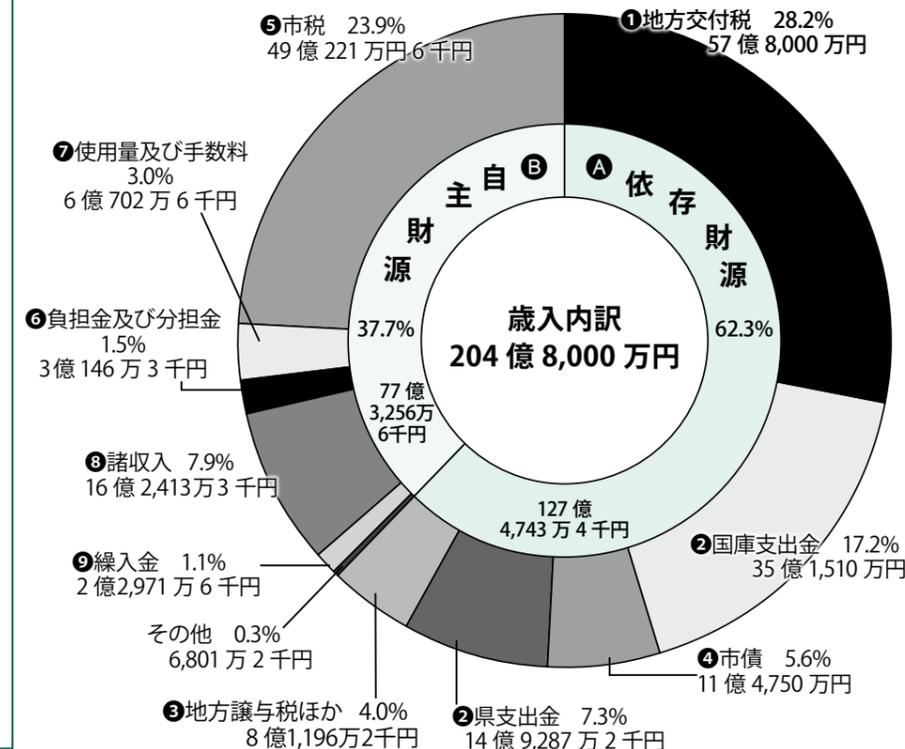


歳入予算

- A** 依存財源…国や県によって額が決められ、交付または割り当てられるお金です。
- B** 自主財源…市が自主的に収入することができる金です。

具体的にはこんな収入です

- ①地方交付税** 地方自治体間の財政力の不均衡を是正するため、国税の一部を一定の基準で国が配分するものです
- ②国庫(県)支出金** 特定の事業を行うために、国や県から交付されるお金です
- ③地方譲与税** 特定の国税の一部を一定の基準で国が配分するものです
- ④市債** 大規模な事業を行うときに、国や銀行から借り入れるお金です
- ⑤市税** 住民税、固定資産税、軽自動車税など、市の財政上最も重要な財源です
- ⑥負担金及び分担金** 保育事業など、特定の事業に充てるため、その事業で利益を受ける人から徴収するお金です
- ⑦使用料及び手数料** 施設の使用料や証明書の交付にかかる手数料です
- ⑧諸収入** 貸付金元利収入や、工業団地の賃貸料などです
- ⑨繰入金** 特別会計や基金(市の貯金)などから繰り入れるお金です





荒尾市のかたち 荒尾市の予算



▲2030 あらお有明優都戦略 屋形山桜の植樹

「2030 あらお有明優都戦略」に基づき、荒尾市の発展、活性化に繋がる事業に重点的に取り組んでいきます。

第5次総合計画の策定

総合計画は、今後の本市が進むべき方向を明確にするための総合的・長期的な計画であり、市政におけるすべての施策の基本となる重要な計画です。新しい総合計画の策定に当たっては、住民主体の観点から市民の皆さんの参画を得ながら、社会情勢の変化や多様化するニーズに対応できる計画にしています。

特別会計

国民健康保険特別会計

78億9,950万5千円（前年比5.9%増）

平成19年度から、3カ年連続で基金を取り崩して収支均衡を図っています。その基金も底を突きかけていて、危機的状況です。本年度は特定健診とがん検診などを同時に受診できる機会を設け、利用者の利便性を高め、受診率の向上を図るなど、効果的な保健事業に取り組み、医療費の適正化に努めます。

介護保険特別会計

52億4,364万1千円（前年比2.6%増）

制度の信頼度を高め、介護保険運営をより効果的に推進していくために、適切な介護サービスを確保し、不適切な給付の削減を行う介護給付適正化事業を重点的に実施します。また、要介護認定を受けていない高齢者にも介護予防サービスを充実させるため、地域包括支援センターの機能強化を図ります。

公共下水道事業特別会計

20億8,860万円（前年比8.1%増）

現状では累積赤字を抱えていますが、単年度では黒字が続いていて、累積赤字は縮小されてきています。処理人口普及率は平成21年度末で65.9%となり、県平均の60.8%を上回りました。本年度は有明・倉懸地区を中心に管渠布設工事を実施し、八幡台下水処理場の脱水機改築更新工事を予定しています。

後期高齢者医療特別会計

7億4,788万5千円（前年比7.8%減）

平成21年度の本市の後期高齢者医療費総額は、前年比で0.6%上昇しています。また、1人当たりの医療費は、県下で3番目に高い状況で、医療費適正化は重要課題です。平成25年3月から新制度へ移行する予定でしたが、少なくとも1年間は遅くなる見込みです。新制度に移行するまでの間、引き続き円滑な運営に努めます。

企業会計

水道事業

収益的収支予算	
総収益	8億5,233万1千円
総費用	8億2,819万9千円
利益	2,413万2千円

近年の給水収益の伸び悩みにより財政運営の見通しは厳しく、一層合理的で効率的な運営に努めていく必要があります。収益的収入の根幹である給水収益は、ほぼ前年並みと見込んでいます。支出は本年4月から料金関係業務を民間へ委託する経費や受水費などを中心に計上しました。また、資本的収支については、平成24年春の給水開始を目指して建設中の「ありあけ浄水場」の建設費5億6千万円をはじめ、未給水地区解消対策として唐池地区の配水管新設工事や老朽管の更新工事などを予定しています。

病院事業

収益的収支予算	
総収益	57億1,676万5千円
総費用	54億1,762万4千円
利益	2億9,914万1千円

「荒尾市民病院中期経営計画」を基本とし、更なる経営の安定化に向けて事業を展開します。安心、安全な医療を提供するとともに、信頼される急性期医療を中心に、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、基幹型臨床研修病院などの指定を有効に活用しながら充実させます。今後も医師・看護師確保に取り組み、大学病院医局との連携強化や、奨学金制度の活用、院内保育所の充実等に努めます。また、HCU施設基準の取得や専門チームを充実させ、地域医療の発展につなげていきます。

平成23年度 施政方針

本市の状況

平成19年に県下で唯一計上された連結実質赤字比率について前年度に引き続き未計上となり、実質単年度収支に約6億円を計上するなど、財政健全化の歩みを前進させました。しかしこれは、ここ数年の政府の経済政策などによる地方交付税の増額や退職手当債の借り入れなどによるところも大きいため、本格的に安定した財政状況になつていくわけではありません。また、特別会計である病院事業会計での病院特別債の償還や、一部事務組合である荒尾競馬組合会計が抱える14億円累積赤字など不安材料もあり、予断を許さない状況です。しかし、今後ともさまざまな課題に対応しながら、戦略プロジェクトである「2030 あらお有明優都戦略」を中心に、将来に向けた本市の発展に取り組めます。

主要な政策

「2030 あらお有明優都戦略」に基づき、荒尾市の発展、活性化に繋がる事業に重点的に取り組んでいきます。

第5次総合計画の策定

総合計画は、今後の本市が進むべき方向を明確にするための総合的・長期的な計画であり、市政におけるすべての施策の基本となる重要な計画です。新しい総合計画の策定に当たっては、住民主体の観点から市民の皆さんの参画を得ながら、社会情勢の変化や多様化するニーズに対応できる計画にしています。

辛亥革命100周年記念事業

中国近代化の出発点となった辛亥革命から、今年10月10日で100周年を迎えます。中国革命の父と呼ばれる孫文を献身的に支援した宮崎兄弟の生誕の地である本市でも、記念事業を実施します。「千万年・光り輝く真の友情」を基本理念に、地元から「知る!」「元気を「出す!」孫文との縁を「活かす!」、国内の注目を「集める!」、中国・台湾から人を「呼び込む!」という5つの視点から記念事業を開催します。この事業を通して宮崎兄弟の功績に対して市民が誇りを持ち、日中両国、さらにはアジアでの荒尾市をアピールし、本市が日中友好の懸け橋となることができるような発展につなげたいと考えています。

行財政改革

本市では平成16年1月に「第三次荒尾市行財政改革大綱」を策定して行財政改革と財政健全化に取り組む、一定の成果を上げました。しかし今後も努力が必要です。社会経済の変化に対応し、市全体が安定した財政基盤を確立するとともに、行政サービスの質の向上を図り、市民の皆さんに信頼される行政運営を目指します。

本年度は、県からの権限委譲を受けるバスポートの申請・交付の手続や、納期限内の市税などの納入などについて「市民サービスセンター」の業務拡充を行い、一層のサービス向上に努めます。また、職員の能力向上と意識改革を積極的に進め、人材育成に取り組めます。



◀宮崎兄弟の生家 牡丹茶会

2030 あらお有明優都戦略

産業・にぎわい・住みよいまちの創出のため、官民協働で戦略的プロジェクトを実施し、2030年までに本市が有明地域の「優都」となることを掲げ、平成18年度から実施しています。9のプロジェクトで19の協働事業に取り組む、一定の成果を上げています。実働から5年目を迎え、取り組みが困難な事業も出てきていることから、構成団体の皆さんと協議しながら検証を行い、内容や進め方を見直し、プロジェクトの実現に取り組んでいきます。

競馬事業の健全化

平成10年度以降、単年度赤字が続いている競馬事業ですが、平成21年10月から「荒尾競馬あり方検討会」の提言を受けてきました。平成21年度決算が約4千5百万円の単年度赤字、累積赤字も14億円に達している現状の中で、競馬存続のためには収支均衡を図ることが不可欠との認識で、平成22年8月から出走手当の減額に踏み切り、販売促進や経費削減に努めました。また、競馬事業の財政状況の透明性を高め、経営を明確にすることで市民の皆さんへの説明責任を果たし、経営上の合理性や効率性を発揮できるように、本年2月から地方公営企業法の財務規定を適用し、1月には経営状況の分析を行う競馬対策室を設置しました。

今後とも経営健全化への取り組みを競馬組合とともに全力で推進しますが、競馬事業の存廃は決算状況や情勢を見極めながら、総合的に判断することが必要と考えています。



2030 あらお有明優都戦略 タグラグビー教室▶